

平成 19 年 12 月 21 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号

六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2007 年 11 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2007 年 11 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル名/項目	客室稼働率 (%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	85.7%	15,304	13,118	675
オリエンタルホテル 東京ベイ	84.1%	19,319	16,242	612
なんばオリエンタルホテル	90.7%	10,988	9,969	168
ホテル日航アリビラ	75.8%	18,783	14,234	376
オリエンタルホテル広島	78.0%	8,948	6,983	205

上記開示に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門について、稼働率・ADR は前年同月とほぼ同水準となり、売上についても前年同月並みとなりました。レストラン部門においては地元客の客数増により、婚礼部門では件数及び件単価の増加により、それぞれ前年同月を上回る売上となりました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門について、競合ホテルの多くが追隨的に安売りを実施する中で、同ホテルはアップスケールを目指したリブランディングの効果を維持すべく価格底上げに注力し、前年同月を上回る水準の ADR を確保したものの、新規参入ホテルの影響により客室稼働率が低下し、同部門の売上は前年同月を下回りました。レストラン部門においては、宿泊人数の減少に伴い朝食売上が減少した為、前年同月を下回る結果となりました。一方、宴会部門では、婚礼宴会が好調に推移し、前年同月の売上を押し上げました。

ホテルの総売上は、好調な宴会部門の売上げが他部門の売上を補い、前年同月を上回る結果となりました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門について、紅葉の始まった京都マーケットの影響、アジア諸国からの観光客を低稼働日に取入れたこと等により、足許の堅調地合を継続させました。これに伴い、客室稼働率・ADR共に上昇し、ホテルの総売上は、前年同月と比較して上回る結果となりました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門について、対前年同月比で客室稼働率が低下しましたが、連休・週末の好調によりADRが上昇し、宿泊売上は前年同月を上回りました。しかしながらレストラン部門・宴会部門共に、宿泊人数減少の影響を受け、前年同月を下回る結果となりました。結果として、ホテルの総売上は、前年同月を下回る結果となりました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門についてはネット経由の取り込みに成功し客室稼働率が前年同月（67.0%）を上回ったことにより、レストラン部門においては客数が増加したことにより、共に前年同月を上回る売上となりました。宴会部門においても、婚礼売上が単価上昇により増加し、前年同月を上回る売上となりました。ホテルの総売上は、全部門が好調に推移した為、前年同月（157百万円）を上回る結果となりました。

-
- 注 1) 上記のコメントは運用会社が貸借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。
- 注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合があります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>